



要点1 古文読解の基礎(1) 随筆文 難易度 ★★☆☆

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

高名の木のぼりといひしをのこ、人をおきて、高き木にのほせて梢を切らせしに、いとあやふく見えしほどはいふこともなくて、おるときに、軒長ばかりになりて、「あやまちすな。心しておりよ」と言葉をかけ侍りしを、「かばかりになりては、飛びおるるとおりなむ。如何にかくいふぞ」と申し侍りしかば、「そのことに候。日くるめき、枝あやふき程は、おのれが恐れ侍れば申さず。あやまちは、やすき所になりて、必ず仕ることに候」といふ。

あやしき下臈なれども、聖人のいましめになかへり。鞠も、かたき所を蹴出してのち、やすく思へば、必ず落つと侍るやらむ。  
〔徒然草〕第百九段

〔蘭注〕高名の木のぼり＝有名な木のぼり名人(植木職人の棟梁のような立場の人)。軒長＝家の軒の高さ(三・四メートル)。如何に＝どうして。あやしき下臈＝申し身分の低い者。鞠＝貴族の遊びである蹴鞠。

(1) A、B、Cは、それぞれだれの言葉か。次から選び、記号で答えなさい。

- ア 高名の木のぼり
- イ 人
- ウ 筆者
- エ 聖人

A  B  C

(2) 線部「かばかり」とあるが、具体的にどんな高さのところを指しているか。五字で書き抜きなさい。

\_\_\_\_\_

(3) 「高名の木のぼり」が、木の下の方で「人」に注意をしたのはどうしてか。

\_\_\_\_\_

(4) 木のぼりの言葉に対する筆者の感想が表れた表現を、十二字で書き抜きなさい。

\_\_\_\_\_

要点2 古文読解の基礎(2) 物語文 難易度 ★★☆☆

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

鹿ヶ谷の陰謀で処罰され、鬼界が鳥に流された俊寛・康頼・成経のところへ、減刑の知らせが平清盛から届く。その場にい合わせた俊寛が、その手紙を初めに読むことになった。開いてみれば、「重科は速流に免す。早く帰洛の思ひをなすべし。中宮御産のお祈りによつて、非常の赦行なはる。しかるあひだ鬼界が鳥の流人、少将成経康頼法師、赦免」とばかり書かれて、俊寛といふ文字はなし。礼紙にぞあるらんとて、礼紙を見るにも見えず。奥より端へ読み、端より奥へ読みけれども、二人とはかり書かれて、三人とは書かれず。

さるほどに少将や判官入道も出で来たり。少将の取つて読むにも、康頼入道が読みけるにも、二人とはかり書かれて、三人とは書かれざりけり。夢にこそかかるとはあれ、夢かと思ひなさんとすればうつつなり。うつつかと思へばまた夢のごとし。そのうへ二人の人々のもとへは、都より言つけ文どもいくらもありけれども、俊寛僧都のもとへは、事問ふ文一つもなし。「そもそもわれら三人は罪も同じ罪、配所も一つ所なり。いかなれば赦免の時、二人は召し返されて、一人ここに残るべき。平家の思ひ忘れかや、執筆の誤りか。こはいかにしつることどもぞや。」と、天に仰ぎ、地に伏して泣き悲しめどもかひぞなき。  
〔平家物語〕卷三二

(1) 清盛から赦免状が届いたのはどうしてか。

\_\_\_\_\_

(2) 三人のうち、鬼界が鳥にとり残されることになったのはだれか。

\_\_\_\_\_

(3) 鳥にとり残されることになった人が、ぼう然としている様子がわかる一文を探し、その初めの五字を書き抜きなさい。

\_\_\_\_\_

学習した日  
/ /  
( )分

学習した日  
/ /  
( )分